

保育士・幼小教員養成校における ICT を活用した音楽実践活動の試み

—コロナ禍における現場との連携についての実践報告—

Trial of ICT-based Music Activities in Training Schools for Nursery, Kindergarten and Elementary School Teachers: Cooperation with the Nurserie in the Corona Disaster

佐藤 慶治, 金浦 美咲, 中村 礼香
Keiji Sato, Misaki Kanaura, Ayaka Nakamura

鹿児島女子短期大学

2020-21年度の科目「WE LOVE 鹿児島」の中の「音楽・身体表現ゼミ」においては、コロナ禍における音楽実践活動の在り方を模索した。コロナ禍以前は実際に保育・教育現場へ赴いて実践を行わせて頂くことができていたが、当該年度においてはそれが難しかったため、ICT を活用して保育現場と連携し、学生の音楽実践活動を行った。本授業の一番の特徴としては、保育現場における実践活動発表の代替として、学生たちがグループ毎に制作した音楽プログラムの撮影を行い、それを熊本市 T 保育園にご協力いただき子どもたちに視聴してもらって、その様子を更に撮影し、最終回において学生に子どもたちの反応をフィードバックしたことである。このような授業の流れを組むことにより、学生たちは自分たちで計画を立てて制作を行ったプログラムを実際に子どもたちに届けることができ、更にはその視聴の様子から、今後、保育・教育現場に就職した際に活かすための反省事項とした。

Keywords : music activities, ICT, corona disaster, nurserie

キーワード : 音楽実践活動, ICT, コロナ禍, 保育現場

1. 本実践報告および実践の概要について

本実践報告では、鹿児島女子短期大学における2020～2021年度（両年度とも後期）の開講科目「WE LOVE 鹿児島（演習形式）」の中の「音楽・身体表現ゼミ（担当：佐藤、中村、金浦）」における実践について、報告を行う。本ゼミは後期（9月～1月）に開講される科目であるが、2020年度および2021年度の両年度ともコロナ禍の中での音楽実践活動を行うこととなり、ICT を活用した学生の養成方法を模索した。コロナ禍以前は実際に保育・教育現場へ赴いて実践を行わせていただくことができていたが、当該年度においてはそれが難しく、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を2年間で養成する本学においては大きな痛手であった。そこで当該年度においてはICT を活用して現場と連携し、学生の音楽実践活動の発表を行った。2年間における活動について振り返るとともに、学生への教育的な有効性を分析したい。本実践報告執筆および図表掲載にあたっては、協力園およびゼミ学生より承諾を得ている。

担当教員のうち、佐藤と中村は音楽を専門としており、金浦は身体表現を専門とする。このような担当教員の専門性に鑑みた結果、本ゼミではNHK で現在も放送されている『おかあさんといっしょ』やフジテレビで2018年まで放送されていた『ポンキッキーズ』のような子ども番組を模して、幼児曲とダンス・幼児体操、つなぎの声かけ等を組み合わせた15分程度のプログラムを学生たちに作成させ、保育現場で子どもたちに見てもらおうという授業内容を構成した。全15回の授業の流れは両年度とも以下の通りである。

表1 全15回の授業の流れ

1	全体指導（他ゼミと合同）	6	ダンス・幼児体操指導②	11	グループ制作③
2	オリエンテーション	7	ダンス・幼児体操指導③	12	グループ制作④
3	幼児曲指導①	8	グループ制作①	13	リハーサル
4	幼児曲指導②	9	グループ制作②	14	動画の撮影
5	ダンス・幼児体操指導①	10	プレゼン指導（他ゼミと合同）	15	振り返り（映像視聴）

本授業の一番の特徴としては、保育現場における実践活動発表の代替としてプログラムの撮影を行い、それを熊本市 T 保育園にご協力いただき子どもたちに視聴してもらって、その様子を更に撮影し、最終回において学生に子どもたちの反応をフィードバックしたことである。このような授業の流れを組むことにより、学生たちは自分たちで計画を立てて制作

を行ったプログラムを実際に子どもたちに届けることができ、更にはその視聴の様子から、今後、保育・教育現場に就職した際に活かすための反省事項とすることができる。

第2回のオリエンテーションにおいては、学生たちに以下の内容を提示した。

(活動の大きな流れ)

- ・『おかあさんといっしょ』や『ボンキッキーズ』の動画を見て、どのような内容が実践されているのかを確認する。
- ・6グループに分け、1グループあたり15分程度のプログラムを作って練習する。
- ・撮影を行い、子どもたちに実際に視聴してもらい、その様子をビデオに撮って送り返してもらう。そのビデオを最後の日に見て、振り返りを行う。

(幼児曲指導の目的)

- ・『おかあさんといっしょ』や『ボンキッキーズ』で歌われている歌を色々歌い、歌のレパートリーを増やす。
- ・番組の動画を見ながら、どのような振り付けで歌われているか学ぶ。
- ・子どもたちと一緒に歌うことを想定して、発声等を学ぶ。

(ダンス・身体表現指導の目的)

- ・様々な幼児体操を実際に踊って、動きのレパートリーを増やす。
- ・幼児体操に取り入れるべき基本動作について学ぶ。
- ・幼児体操を指導する際の気を付けるべきポイントについて学ぶ。
- ・曲を選び、振り付けをし、友達同士で教え合いをする。

2. 授業の前半の流れについて

第2回のオリエンテーションで授業の流れや目的を確認した上で、第3回～第7回においては担当教員より幼児曲およびダンス・幼児体操についての指導を行った。

幼児曲指導においては、まず『おかあさんといっしょ』『ボンキッキーズ』を学生に視聴させ、その内容について学生同士でディスカッションさせることで、プログラム作成につながる振付や声かけ、また発声法について学ばせることができた。2020年度においてはその後、佐藤と中村が発声や幼児曲歌唱法についての指導を行ったが、2021年度においては『ボンキッキーズ』第11代目うたのおねえさんを務めた塚本江里子氏を特別講師として招聘し、幼児曲歌唱法についての指導や、歌と振付を上手く組み合わせるための指導、子どもたちに向けたプログラム制作を行う際の留意点のアドバイス等を行っていただいた。ただし塚本氏は関東地方の在住であるため、この指導についてもオンラインで双方向にテレビ電話を繋いでの指導となった。以下の図が、幼児曲指導の様子である。



図1 2020年10月、ディスカッション



図2 2021年10月、塚本氏の指導①



図3 2021年10月、塚本氏の指導②

ダンス・幼児体操の指導については金浦が担当した。指導①においては身体表現を行う上での基礎的な動きやパターンについて学習を行い、また幼児に動きの指示を声かけする際の適切な用語についての指導も行っている。指導②では指導①で学んだパターンを使ってグループ毎に幼児曲を使った振付を制作し、指導③でそれぞれのグループ毎に発表を行った。ここで制作した振付については、実際にプログラムの中で使用している。このような形で身体表現の基礎力を身につ

けることによって、その後のプログラム制作における振付の創作につながった。



図4 2020年11月、グループ毎の振付制作



図5 2021年11月、グループ毎の振付発表

3. 音楽プログラムの制作および園での視聴について

第8回から第13回においては、グループ毎に別教室に分かれて、それぞれのプログラムの制作を行った。またそれを第14回で撮影し、その後、動画編集まで行っている。第14回までは年内に授業を組み、動画編集については年末年始の課題としてグループ毎に実施させた。それを佐藤が協力園にお持ちし、1月の第2週で子どもたちに視聴をしてもらい、更に授業最終回で学生たちに子どもたちの視聴の様子を動画で見せるという流れである。



図6 2020年11月、振付の創作



図7 2020年12月、小道具等の製作



図8 2021年12月、リハーサル

プログラムについては、各年度それぞれにおいて、以下のような楽曲を使用している。

表2 2020年度のプログラム

	1	2	幼児体操	幼児体操	5
A	ドンスカバンバン応援団	にじのむこうに	ハッピージャムジャム		からだダンダン
B	どんな色が好き	数字のうた	ドコノコキノコ		
C	大きなカブ	バナナの親子	ジャングルポケット		
D	モグラトンネル	アイアイ	はらぺこカマキリ		
E	おしりフリフリ	クラリネットをこわしちゃった	おしりたんてい		
F	虫歯建設株式会社	大きな古時計	ぼくコッシー	キミに100%	

表3 2021年度のプログラム

	1	2	3	幼児体操	5
A	パンはパンでも	切手のないおくりもの	なし	あしたてんきにな〜れ	からだダンダン
B	桃太郎	にじのむこうに	きみに100%	おどるポンポコリン	
C	雪	いっぽにほさんぽ	コンコンクシャン	勇気りんりん	
D	ぱっぶんぶう	森のくまさん	ハッピージャムジャム	エビカニクス	
E	バスに乗って	アイアイ	なし	ぼよん行進曲	
F	ドレミの歌	どんな色が好き	なし	星野源ドラえもん	

《からだダンダン》については2019年度より『おかあさんといっしょ』の体操曲として使用されている楽曲であり、全グループがプログラムの最後に入れる形となった。このねらいとして、『おかあさんといっしょ』と同じ形式でのプログラムとすることにより、幼児が自然にプログラムの活動に取り組んでくれるようにするということがある。その他の楽曲については、学生たち自身で選曲をさせ、担当教員がアドバイスを行いつつ、楽曲に合った振付創作や小道具の製作等もグループ活動として行わせている。幼児曲については、単に歌唱を行うだけではなく、『おかあさんといっしょ』や『ポンキッキーズ』を模倣した前置きの言葉かけや振付等を入れ、子どもたちがより音楽活動を楽しめるような工夫を行うように学生へ指導を行った。撮影された動画を図として年度毎にいくつか掲載したい。



図9 2020年度Aグループ《にじのむこうに》



図10 2020年Fグループ《虫歯建設株式会社》



図11 2021年度Eグループ《アイアイ》



図12 2021年度Bグループ《きみに100%》

2020年度は振付や歌唱の練習に時間を割いたため、映像自体の工夫としては、背景のスクリーンへ楽曲に合った写真を表示する程度にとどまった。2021年度は前年度の反省を活かし、小道具の製作や動画編集に時間を多く取れるような授業の流れとしたところ、ペープサートを使用したアニメーションの制作や、エフェクトおよび字幕を使った動画編集など、映像自体にも諸々の工夫を凝らしたグループが多かった。このような形で各年度とも15分程度の動画をグループ毎に1本、合計6本制作した。

園での子どもたちの視聴については、両年度とも2～3歳児クラスにて実践を行わせていただいた。基本的に撮影用のカメラは定点とし、園よりご許可を頂けたため子どもたちの表情を含める形で視聴の様子を撮影させていただくことができた。実践においては声かけを最小限とし、「テレビの中のお姉さんたちと一緒に歌ったりおどったりしてみよう」などと最初に声かけをする程度にとどめた。視聴の様子を以下に掲載する。



図13 2021年1月



図14 2022年1月

本実践については、コロナ禍における園側のご負担を減らすため、各年度とも休憩を挟んで1日で6本の視聴を子どもたちに行ってもらっている。両年度とも、見せる順番によって子どもたちの温度差はあったものの、どのグループの動画においても、学生の演奏や振付に合わせて生き生きと動いたり声を発したりする子どもたちの姿を動画に収めることができた。

4. 学生の振り返りおよびまとめ

上記のようにして園の子どもたちの視聴の様子を映像におさめ、学生の動画と時間を合わせて合成した（並べて表示した）編集を行い、各年度とも授業最終回において学生に視聴させた。また、授業のまとめとして以下の内容の振り返りシートに記入を行わせた。

- ①今回の経験は、今後、子どもと関わる仕事につく上で役に立った（はい・いいえ）
- ②コロナ禍の時代の保育者養成において、有効な教育方法だったと思う（はい・いいえ）
- ③今回の活動を通して学んだこと、反省点、工夫した点、感想などを書いてください。
- ④自分のグループの映像に対する子どもたちの反応はどのようなものでしたか。また、そのような反応だった理由は何だと思いますか（曲ごとに書く）。子どもたちの反応を見た上での自分たちのプログラムの良かった点、改善すべき点なども書きましょう。
- ⑤今回の活動で学んだことを、就職した後にどのように活かしたいですか。

このような内容の振り返りを行った結果、①と②の設問については有効回答の記入を行った全員（2020年度30名、2021年度33名）より「はい」の回答を得ることができた。

また、③については、子どもを音楽活動に引き込むためにはプログラムに集中させるための工夫が大事だと感じたという主旨の回答がどちらの年度においても半数以上となった。具体的には、「どのような声かけをすれば子どもたちが音楽活動に集中してくれるかや、子どもたちがひきつけられる歌唱法について学ぶことができた」や「子どもがプログラムを見たいと思う導入が大事だとわかった」、「子どもが参加するタイミングがわかるような声かけが必要だと感じた」等である。また、「お手本となる踊る側の人たちがはっきり大きく動かないと子どもと一緒に動きづらい」「一緒に踊ってほしいときは手足の曲げ伸ばしを思った以上に大きくする必要がある」等、振付を実施する上の工夫を行うことが必要という回答も、各年度で10名程度ずつ見られた。

④についてはほとんどの学生より、楽曲の特性（リズムやテンポ、調子等）によって子どもたちがいかに音楽に集中できるかが変わってくるため、子どもの好む楽曲を選曲することが大事という回答が得られた。また、振付無しで演奏した楽曲については総じて子どもたちの反応が悪かったため、幼児曲における振付の大切さを学んだという回答や、小道具を使った楽曲の方が子どもたちの興味を引き付けることができたという回答も複数、見られた。

⑤について、本授業においては両年度の全学生とも保育士・教員としての就職を希望していたため、ほとんどの学生の回答において、授業で学んだ幼児曲や身体表現の実践法を、就職してから子どもたちと活動を行う際に活かしていきたいという内容が見られた。また、今回学んだ幼児を引き付ける声かけについても、就職後に活かしていきたいという回答が複数見られた。

これらの学生へのアンケートより、まずICTを活用して幼児と学生をつなぎ、学生に音楽活動を実践させるという今回の試みが、実際に園に向かずとも、一定の教育効果をもたらしたということがいえる。塚本江里子先生についてもオンラインでつないで歌唱や振付、声かけの指導を行っていただいたが、うたのおねえさん時代の実践体験を通じた学生へのアドバイスや具体的な動き方の手本等、貴重な指導を頂くことができた。

保育現場における音楽活動については、歌唱やピアノ演奏の技術的な部分の大切さはもちろんであるが、それ以前に子どもたちが音楽に集中してくれないという課題が生じることも多くある。今回の実践を通じ、学生たちは繰り返し歌唱の撮影を行うことによって、幼児曲の演奏実践経験を積むことができた。更に、アンケートから分析されるとおり、「子どもを音楽活動にひきつけるための工夫」の大切さや、声かけや振付等を通じたその方法について、学生が改めて考える機会を提供する機会にもなったため、授業全体を通じて、上記の課題についての解決力を育成することができたともいえるだろう。

以上、本稿においてはコロナ禍の2020～2021年度に実施した音楽実践活動の試みについて報告を行った。養成校におい

ては実際の現場との連携が非常に重要であり、コロナ禍はその点において学生教育の大きな妨げとなるが、今回は ICT を活用することによって、学生たちに就職後にも活用できるような経験を積ませることができたと考える。今後、コロナ禍の状況次第では、更に ICT を活用した実践を行っていきたい。

引用・参考文献

(楽曲出典および放送・出版年)

『おかあさんといっしょ (1959～現在)』

《ジャングルポケット (1980)》《バナナの親子 (1982)》《どんな色が好き (1992)》《にじのむこうに (1996)》《虫歯建設株式会社 (1999)》
《もぐらトンネル (1999)》《おしりフリフリ (2005)》《ほよよん行進曲 (2006)》《バスに乗って (2007)》《あしたてんきにな～れ (2009)》
《ドンスカパン応援団 (2009)》《ドコノコキノコ (2010)》《大きなカブ (2012)》《はらぺこカマキリ (2019)》《からだダンダン (2019)》《パ
ンはパンでも (2020)》《いっぽにほさんぽ (2020)》《コンコンクシャン (2014)》

『みんなのうた (1961～現在)』

《大きな古時計 (1962)》《ドレミの歌 (1962)》《クラリネットをこわしちゃった (1963)》《森のくまさん (1972)》《切手のないおくりも
の (1978)》

『その他』

《桃太郎 (尋常小学唱歌, 1911)》《雪 (尋常小学唱歌, 1911)》《数字のうた (キングレコード, 1957)》《アイアイ (宇野誠一郎作曲,
1962)》《おどるボンボコリン (ちびまる子ちゃん, 1990)》《ハッピージャムジャム (しましまとらのしまじろう, 2006)》《エビカニク
ス (ケロボンズ, 2007)》《勇気りんりん (アンパンマン, 2010)》《ほくコッシー (みいつけた, 2013)》《きみに100% (クレヨンしんちゃ
ん, 2013)》《おしりたんてい (おしりたんてい, 2018)》《ドラえもん (星野源, 2018)》《ぼっぶんぷう (みいつけた, 2021)》

(2022年11月24日 受領／2022年12月8日 受理)